6月の道内景況

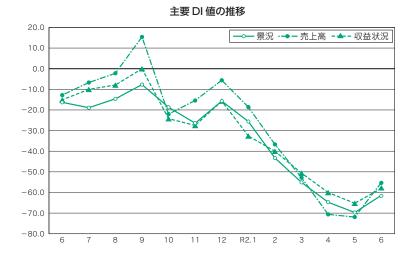
情報連絡員レポート

主要DIすべてで回復傾向が見られるも いまだマイナス域での推移続く

概 況

主要DIの推移では、「景況」「売上高」「収益状況」のすべての項目で昨年12月以来6ヶ月ぶりの改善傾向に転じた。

業種別に見た前月との比較では、製造業は現状維持の「取引条件」「雇用人員」を除くすべての項目で改善し、非製造業では「取引条件」の項目で若干落ち込んだものの、その他の全項目で改善が見られた。



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比
業界の景況	△69.7	△61.4	8.3 *	△65.6	△59.4	6.3 *	△71.9	△62.5	9.4
売 上 高	△71.9	△55.2	16.7 *	△62.5	△53.1	9.4 •	△77.2	△56.4	20.8
収益状況	△65.2	△58.0	7.2 *	△56.3	△53.1	3.1 *	△70.2	△60.7	9.5 *
販売価格	△14.6	△12.5	2.1 *	△18.8	△15.6	3.1 *	△12.3	△ 10.7	1.6 *
取引条件	△ 19. 1	△ 19.3	△0.2	△15.6	△ 15. 6	0.0	△ 21. 1	△21.4	△0.4
資金繰り	△37.1	△33.0	4.1 *	△46.9	△40.6	6.3 *	△31.6	△28.6	3.0
雇用人員	△ 21. 3	△15.9	5.4 •	△9.4	△ 9.4	0.0	△28.1	△19.6	8.4

(凡例) 30以上 10~29 9~△10 △11~△29 △30以下

天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」) したという回答(構成比) から「減少」(または「悪化」) という回答(構成比) を差し引いた値(DI) をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

- ・新型コロナウイルスの影響で製品需要が低下し、依然厳しい状況が続いている。 (水産食料品/網走)
- ・外食する人は少しずつ増えてきているが、いまだ慎重姿勢の人も多く、飲食店の 客足が新型コロナウイルス流行前の水準まで回復するには時間を要すると思われ る。店舗ではソーシャルディスタンスを取るため座席数を縮小して営業してお り、以前よりも売上が落ちている。そのため納品業者(製麺会社)も麺の受注数 が大きく減少し、前年同月比で悪化の一途を辿っている。 (めん類/全道)
- ・5月単月の出荷量は味噌・醤油とも前年対比大きく減少した。新型コロナウイルスの影響で、業務用品の取扱い比率が高い企業ほど苦しい状況に置かれている。 (味噌・醤油/全道)
- ・人やモノの動きが活発になってきたことで業界でも売上、収益、景況に好転の 兆しが見え始めているが、マイナス圏での好転にとどまり、今後個人消費が一 気に上向くとは考えられないことから先行きは不透明である。 (飲料/全道)
- ・製材市況はカラマツは弱保合、エゾ・トドマツは弱保合。原木市況はカラマツは保合、エゾ・トドマツは弱保合。カラマツ原木の在庫は潤沢。梱包材やパレットの受注がなく製材の荷動きは非常に悪い。エゾ・トドマツ原木は新材も出始め、製材工場は在庫を多く抱える事態になっている。原木価格も低下傾向。DIY 用製材の旺盛な受注に加えて桟木も少しずつ動き出している。 (一般製材/全道)
- ・先月よりも新型コロナウイルスの影響が大きく、受注・生産量ともに 4 割減。 月を追うごとに 1 割ずつ受注量が減少している。 (一般製材/中川郡)
- ・6月の生コン出荷量は前年同月比 96.2%の約 296 千 m³。地域別には、前年

- 同月を上回った分会(協組)は29分会(協組)中15分会(協組)で前年 (増加は13分会(協組)を上回った。前年同月と比較して、増加したのは北 見地方、南北海道、札幌など。一方、減少したのは岩宇、北渡島、釧路などで あった。 (窯業・土石製品製造業/全道・生コン)
- ・大手・中堅ゼネコンからの硝子・建具の見積依頼件数は増えつつあるが、今後 も非常に厳しい状況が続くと思われる。少しずつ商談のための客先訪問を再開 している。施工に関しては延期や中止、先延ばしにされる状況に変わりはな い。 (窯業・土石製品製造業/全道・ガラス)
- ・新型コロナウイルスによる大幅受注減が続いている。自動車は回復の兆しが見 えているが、産業機械や建設機械向けなど、公共関連以外では依然厳しい状況 が続く。生産調整で雇用調整助成金を受給している会社も数社ある。

(銑鉄鋳物/全道)

- ・国内造船所は手持ち工事量の減少等で安価受注しているため、収益環境が厳しさを増し、深刻な状況に直面している。公共事業関係の作業従事者は10月以降の予定がなく、人員過剰が予想される。 (金属製品/室蘭)
- ・新型コロナウイルス対策のビニール設置も落ち着き、関連資材の入荷はしやすくなった。営業活動を自粛しているため先行きが読めず、不安である。

(金属機械工作/全道)

・印刷部門のチラシ印刷は徐々に回復しているが、昨年同月の水準までは達していない。組合員事業所の電気使用量は前年同月比5%強のダウンとなった。

(金属機械工作/札幌)

非製造業(卸・小売・商店街・サービス業)

- ・緊急事態宣言解除により日常生活が戻ってきたことで、これまで好調に伸びていたスーパーやドラッグストアの業績が落ち着き、売上もやや伸び悩んでいる。一方で観光面は回復の目途がまったく立たず、大幅な減収になるなど厳しい状況に置かれている。 (菓子/全道)
- ・新型コロナウイルス対策で自粛していた小売が活動再開したことで卸売でも商品が動き出したが、全体的に前年対比では減収傾向が続いている。スーパー、ドラッグストア向け生活雑貨は新型コロナウイルス対策需要もあり順調に推移した。靴履物では小売への客足が戻らず、廃業・倒産に拍車がかかっており、業界再編の動きが加速している。 (各種商品/札幌)
- ・物販では、飲食店・旅行・観光産業の売上が大幅に減少したが、キャッシュレス消費者還元事業の最終月の駆け込み需要があり、還元事業登録店舗の売上が大幅に増加したため前年を上回った。キャッシング売上はキャッシュレス化の影響と遊興費の需要減少から昨年より半減した。収益は取引条件の低減化とキャッシングの大幅な減少により悪化している。 (各種商品/旭川)
- ・6月の取扱高は、6月末で終了したキャッシュレス還元事業の駆け込み需要を 受けて前年を多少下回る状況となった。 (各種商品/苫小牧)
- ・6月の各組合員の状況について、経済活動の再開により景況感は前月までと比べ上向いているが、小売の各組合員店からは、新型コロナウイルス流行前と同水準までは客足が戻っておらず、極めて厳しいとの声が多く聞かれた。6月の取扱高全体では前月同様、前年を下回る結果になったが、部門別では、カード部門がキャッシュレスポイント還元事業の終了に伴う駆け込み需要もあり、高額商品を扱う業種が好調で前年を上回った。 (各種商品/釧路)
- ・新型コロナウイルスの影響で売上・収益とも激減した。スーパーやドラッグストア、電子商取引は健闘している。 (各種商品/帯広)
- ・今月からスルメイカ漁が解禁になったが、新型コロナウイルスの影響で需要が減少し、1 キロ当たりの料金も過去5年で最低の水準に落ち込んだ。卸売市場での6月の生鮮スルメイカ取扱量は前年を5トン上回ったものの、1 キロ単価は前年より安く、新型コロナウイルスの影響が続いていると思われる。

(各種商品/函館)

- ・売上高は対前年同月比 108%。コーヒーやインスタント食品等の嗜好品を中心に回復が見られ、売上増になった。 (野菜・果実/札幌)
- ・新型コロナウイルスの影響で外国人観光客の来店は皆無、国内ツアー客もほぼない状態が続いている。今年はトキシラズの価格が例年より安く、店頭販売も若干上向いたが、それ以上にネット販売が好調だった。 (鮮魚/釧路)
- ・スーパー等では徐々に売上・客足が戻ってきているが、居酒屋や飲食店への納品は前年比半分程度にとどまる。ホテル・土産店は前年の $10\sim20\%$ で推移

しており、観光関連の回復にはまだ時間を要する。 (各種食料品/札幌)

- ・6月の販売・収益状況等では、原油価格が引き続き高値基調で推移し、卸売価格と 販売価格に予想以上の乖離がある。消費者の節約基調は一層顕著になり、市況を 悪化させる要因が解消されないまま販売量も大幅に落ち込むなど、依然厳しい経 営環境が続いている。自粛要請の解除を受け、遠出を含めた旅行など消費者の需 要増を見込む販売業者も多かったが、これまで同様に消費意欲は停滞傾向にあり、 燃料油や油外販売に好影響を与える要素も見受けられなかった。 (燃料/全道)
- ・緊急事態宣言の解除により学校、公共施設等は再開したが、イベント等は中止が続き、本州からの観光客は航空便の休止を受け皆無、道内観光客の動きも鈍い。原油価格が5月中旬から急騰し、それに伴い市場価格は6月も続騰しているため、業界全体で極めて厳しい経営状況が続いている。(燃料)10元年(2月27年7月2月1日末)が上側にませた。(大学事業であり、「ストスをが変化した場合を表す。
- ・製品売上が大幅に減少した。修繕事業でカバーしているが前年比 2 割程落ち込んでいる。 (農業用機械器具/全道)
- ・低迷していた中古車小売販売は好調の兆しが見えてきているが、この好況は長く続かないとの予想が多い。ローン等の利用も多く見受けられる。

(中古自動車/札幌)

- ・地元百貨店の5月売上高は前年同月比39.7%減の2億2,449万円。外出自粛の影響で一部の売場を閉鎖したため、来店客が減少し売上減になった。市内大型店5店の5月売上高は前年同月比10%減の13億8,100万円。スーパー3社の5月売上高は前年同月比6.7%増の34億7,900万円。6月共通駐車券の利用は前年同月比84.3%、買物共通パス券は前年同月比44.6%に減少。(商店街/帯広)
- ・緊急事態宣言は解除されたが、今後も公衆浴場の利用を控える傾向は続くと思われ、いまだ利用客数の回復には至っていない。 (公衆浴場/全道)
- ・新型コロナウイルスの影響で6月期(4~6月)の道内中小IT企業の収益は減収減益が避けられない状況となっている。IT業界は他の業種に比べて好調とされるが、主軸の業務によって業績に濃淡が出始めている。企業の業務効率向上へのデジタル投資は追い風の状態で、テレワークやWEB会議システム、自前のサーバーシステムをクラウド型に移行するなどのDX開発が主軸の道内中小IT企業は案件が堅調で業績も伸びている。反対に、目先で不要不急でないと判断された製造業の設備投資に関わるシステム開発投資は中止や延期に追い込まれ、これらを請け負う道内の受託システム開発企業は、技術者の自宅待機や開発中断を発注元から要請され、業績への影響が危惧される状態となっている。次世代通信規格5G向け投資の本格化や自動運転、医療分野は事業拡大を見据えて避けることのできないIT投資であることから、短期での業績悪化はやむを得ないとしながらも、長期的視野での収益は確保できると楽観視する道内中小IT企業経営者が多い。

非製造業(建設・運輸業)

- ・新車販売は4~5月の落ち込みから若干の回復傾向にあるが、昨年比では減少している。整備需要は昨年比不変。 (自動車整備/苫小牧)
- ・戸建住宅やマンション等民間の塗装工事が減少した。 (塗装工事/札幌)
- ・工事の稼働率は現状維持にとどまり、上昇基調は感じられない。通常では夏場にかけて仕事量が増え、稼働率も上がってくるが、今年は先行き不透明な状況。公共工事は例年通りの発注量が確保されている。民間工事では、ゼネコンを始め徐々に見積もり依頼が増え始めており、直ちに仕事が確定する訳ではないが、様々な計画が少しずつ動き出しているように思われる。建設業は基本的に出来高払いや工事が完成してからの支払いになるため、今後も資金繰りを圧迫する状況は続くと考えられる。 (電気工事/全道)
- ・新型コロナウイルス感染拡大を受け、4~5月を中心に建設工事の現場ストップ 等が発生し、売上減や従業員の稼働低下などが見受けられた。現在では現場ストップの状況は解消されつつあるが、稼働低下や資材調達難、単価上昇といった これまでの影響に加え、景気減退による設備投資の中止が散見される。今後の
- さらなる建設需要・工事引き合いの減少が懸念されている。 (左官工事/全道)・組合員は4~5月に発注されたメーター交換や老朽管更新工事を引き続き対応しているほか、月末には残りの老朽管更新工事が発注され、最終的に前年度同時期と同程度の事業量となる見込みである。 (管工事/名寄)
- ・食品関係は回復が見られるものの、イベント関係では厳しい状況が続いている。組合本部の共同受注、共同配車はスポット、引越が落ち込んでいる一方、 宅配は順調に売上を維持している。全体では5%ほど売上が落ち込んだ。

(一般貨物自動車運送/全道) (一般貨物自動車運送/小樽)

- ・緊急事態宣言解除後も荷動きは少ない。
- 北海道発道外向けの農産物の荷動きは全般的に不調。一般カーゴは新型コロナウイルスの影響を受け荷動きが悪く、建設機械関連は工期延期等で激減している。
 (一般貨物自動車運送/石狩)
- ・売上高は前年同月比 29.0%減少。乗務員数は前年同月比 6.8%減少。5 月分チケット取扱高は前年同月比 54.6%減少。 (一般乗用旅客/旭川)